

水辺とまちの入口ACT株式会社

報告書

目次

- ①人材発掘・育成事業
 - 231104 中川運河SUP大行進&アンケート
 - 240108 中川運河WS&アンケート
 - 231125 栃木巴波川ヒアリング
- ②地域共創シンポジウムにおける成果報告
 - 240127 地域共創シンポ_井村資料
- ③人材育成のためのカリキュラム作成
 - 水辺の人材育成カリキュラム報告_ACT

人材発掘・育成事業

231104 中川運河SUP大行進&アンケート



11/4 Sat
中川運河SUP大行進！
2023

■コース
中川運河(堀止～長良橋～松重閘門)

■スケジュール
7:00 集合・受付(事前にSUP準備)
7:30 ささしま出発
8:15 長良橋着(SUPスルー珈琲元年)
9:00 長良橋発
9:30 松重閘門で撮影
10:00 小栗橋発
10:30 ささしま上陸

■参加費
3,000円(シャツ、コーヒー、保険代含む)
※小雨決行、予備日11月19日(日)



珈琲元年で
モーニングコーヒー



ハンガース



松重閘門のこっち側

中川運河の水面に立つ
そんな水辺の風景を作りたい
と、昨年初めて「中川運河SUP大行進」を開催しました
そして、今年もやります。あなたも水辺の風景の一員になりませんか

主催:ナゴヤSUP推進協議会
参加希望の方は、ナゴSUPメンバーに伝えるか、井村まで連絡下さい。
とりまとめ担当:井村美里



実施概要

目的:

中川運河再生計画において掲げられている「運河を舞台とする 市民交流や創造活動の推進」「運河の魅力ある景観要素を活用した市民活動の促進」をめざし、同日開催の堀止マルシェと連携し、中川運河再生の可能性をSUPによって推進する機会を創出する。

日時: 令和5年11月4日(土) 午前7時から午前11時

区域・場所: 中川運河(堀止～松重閘門前～長良橋)

内容: SUPを所有し漕ぐことができる参加者を対象に、中川運河をSUPで大人数で水上移動する。

参加者: 33名

ナゴヤSUP推進協議会 13名
デンソーボート部 3名
パドルクラブ水面浮遊部 17名

中川運河SUP大行進！2023



20231104

中川運河SUP大行進！2023



20231104

中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



20231104

中川運河SUP大行進！2023



20231104

中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



中川運河SUP大行進！2023



20231104

アンケート結果

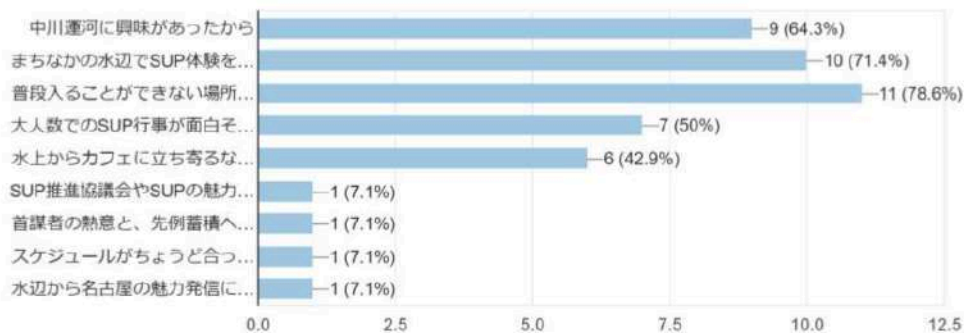
↓ アンケートフォーム ↓
<https://forms.gle/CBvck4huAThvYuR3A>

問1. あなたはこれまで、まちなかの川や運河でSUPをした経験はありましたか？
14件の回答



問2. 中川運河SUP大行進！2023に参加しようと思った理由は何ですか。

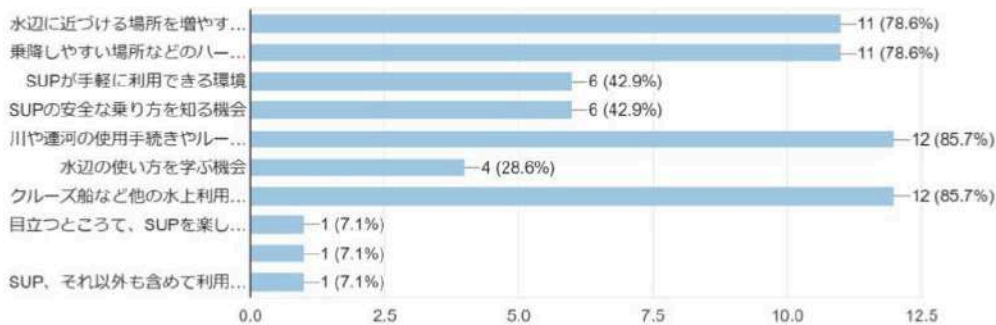
14件の回答



中川運河に興味があったから
まちなかの水辺でSUP体験を試みたかったから
普段入ることができない場所と聞いたから

問4. 名古屋市内の川や運河で、SUPなどを使っ...るようになるためには、何が必要だと思いますか？

14件の回答

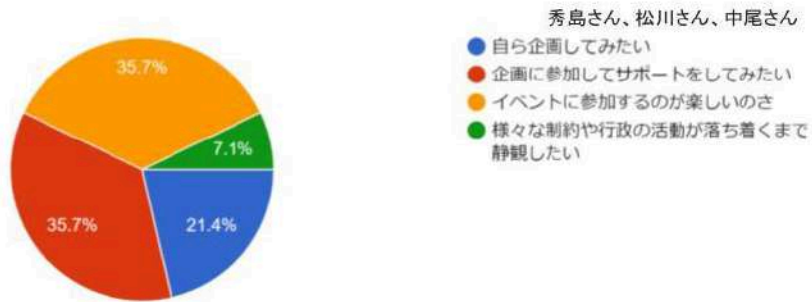


水辺に近づける場所を増やすこと
乗降しやすい場所などのハード整備
川や運河の使用手続きやルールが分かりやすくなること
クルーズ船など他の水上利用者との良好な関係

問3. 中川運河SUP大行進！2023に参加した感想を教えてください。

- 開催日がよかった！理由はマルシェイベント、愛知大学の大学祭、と同日で多くの人に見てもらえたから。
- 思ったより**水が綺麗**だった **水上からの町並みが綺麗**だった
- 日頃会わないパドリストと一緒できた。とても良い天気でも水質もよく、**日常的にこの水面で楽しめる**とよいと思った。
- 幅広い中川運河**だと、あれだけ大勢のSUPが余裕でクルーズできて、醍醐味を味わえ楽しかったです。**水辺からみた岸辺は未来の魅力**を感じました。
- エントリーは少し大変ですが、ゆっくり下りながらコーヒー☕️タイム良かったですね。松重開門、高校3年間名鉄電車🚆から眺めていた建物、やっと分かりました。いい勉強になりました♪帰りは**駅ビル群**を見てのsup良かった～
！ 来年はタモ持って掃除supしたいですね^^
- なかなか面白かったです。水質はアレですが**景色**が良く企画も面白かったです。
- 水上コーヒーは、サブスルーだと渋滞する＆平行に岸に寄せる技術が必要なので、タイの水上マーケットのように上級者がカゴに入れて配達するスタイルでも良いかなと思いました。(カップ回収も)
- 楽しさは伝わっているので、
- とても良かったです 水上では陸上での**騒音もシャットアウト**され心地よい時間を過ごせました コーヒータイムは陸上でも良かったのかとかんじましたが非日常というところでは良かったと思います 県外在住なので地理感覚がありませんがSUP～上陸しての地域観光(例えば熱田神宮)や昼食等できたら良いのではと感じました
- 水質が気にならなかったという嘘になってしまいますが、**水上から観る景色**はとても良かったと感じます。思い切りドボンしても良い日がくるといいですね。
- 出来れば上陸してゆっくり出来れば
- 街にいるのに**喧騒から離れ**、広がる**水面と空が開放感**を与えてくれる。都市の未使用部分の有効活用という将来性を感じられた。
- 中川運河でのSUPを通じて、区民同士(中川・港)が交流できれば楽しいと思いました。
- コーヒータイム素敵な時間でした お菓子をいただいたのは、サプライズで嬉しかったです

問5. あなたは、中川運河で水面を利用したイベント等の企画をしてみたいと思いますか。
14件の回答



問6. 中川運河の水面利用のハードルを下げるため...います。参加希望の有無をお知らせください。
14件の回答



問7. あなたがこれまで行ったことのあるまちの水辺で、良かった都市とその理由を教えてください。

- 岐阜市の長良川、郡上八幡、飛騨古川
- (都市域に限定)
- 横浜 独特な景色がある
- 岐阜 まちのそばにある長良川がきれい
- 大阪 堀、川がたくさん
- 徳島 まちと水辺が近い
- 広島 どこからでも入れる
- 松江 堀川の舟運が楽しい
- 福岡 玄界灘がきれい
- 行ってはいませんが、富山の富岩運河や射水の水路で漕いでみたい
- 三重県大台町宮川 水質透明度最高！
- 静岡県川根 接岨湖 山深い湖湖上駅！
- 琵琶湖 水島 新鹿 ツアー最高です。
- 広島、横浜、お台場、景色が良いのと思ったより水質が良く落水しても大丈夫そうで良いなと思いました。
- 京都の鴨川、街の中心で買い物途中に休憩したりピクニックできる、景観が良い
- 広島・太田川、唐津・松浦川、美波・日和佐川 簡単にアクセスできて景色がよい
- 岐阜県大垣市は地元のサップショップと提携し、水辺のイベントに併せてサップ体験を行っている点です。
- 広島リバーdo
- 富山県 運河の公園
- 趣旨とずれているかもしれませんが、正色学区の正色広場は学区が管理しているため、利用する際にも市や県に届出や許可など必要ありません。使い勝手のよさが魅力です。
- まち中ではないですが、新城桜淵公園良かったです水質や自然の景色が良い

問8. その他コメントなどありましたら、自由にご記入下さい。

- ピンクのビブスより、せっかく作ったTシャツで、色を揃えたかった。でも、ライフジャケットがあり工夫が必要
- ご苦労様です
- 今後もどんどん実績を重ね、認知度を上げ街なかでのSUPの市民権を得ていきましょう。
- 堀川掃除sup子供達としたいですね^_^
- イベントお疲れ様でした。乗降は船着場ではなく西側スロープを使うと船の邪魔にもならずより良いと思いました。
- あの柵を脚立などを使い乗り越えるか、可動式に整備していただく必要はありますが。
- 来年は段差がないところからSUPを降ろせるようにしたいです！
- もっとオシャレなイベントを期待します
- 中川運河でのSUPで、名古屋のまちに興味にがわきました良いきっかけになりました
- ありがとうございました

中川運河SUP大行進！2023をふりかえり 水面を行く！ ために

中川運河に
興味あるわ～

水面に
立ってみたい



なんか
やってみたい

日時：2024年1月8日(月祝)13:30～
場所：名古屋都市センター13階・EVホール横会議室

240108 中川運河WS&アンケート

中川運河の水面を使おう!

1/8
月祝

中川運河SUP大行進! 2023をふりかえり

水面を行く! ために

進行予定

13:30- 開会
14:00- 中川運河でやってみたいことを出し合おう
14:30- 中川運河のことを知ろう
ミニ講演 (愛知工業大学 川口暢子氏)
中川運河SUP大行進! 2023の報告
15:15- 水面を行く! ために必要なことを話し合おう
16:30- おわりに

場所

名古屋都市センター13階EV横会議室

主催: ナゴヤSUP推進協議会/水辺とまちの入口IACT株式会社



実施概要

日時: 2024年1月8日(月祝)

13:30~16:30

場所: 名古屋都市センター13階

参加者: 14名

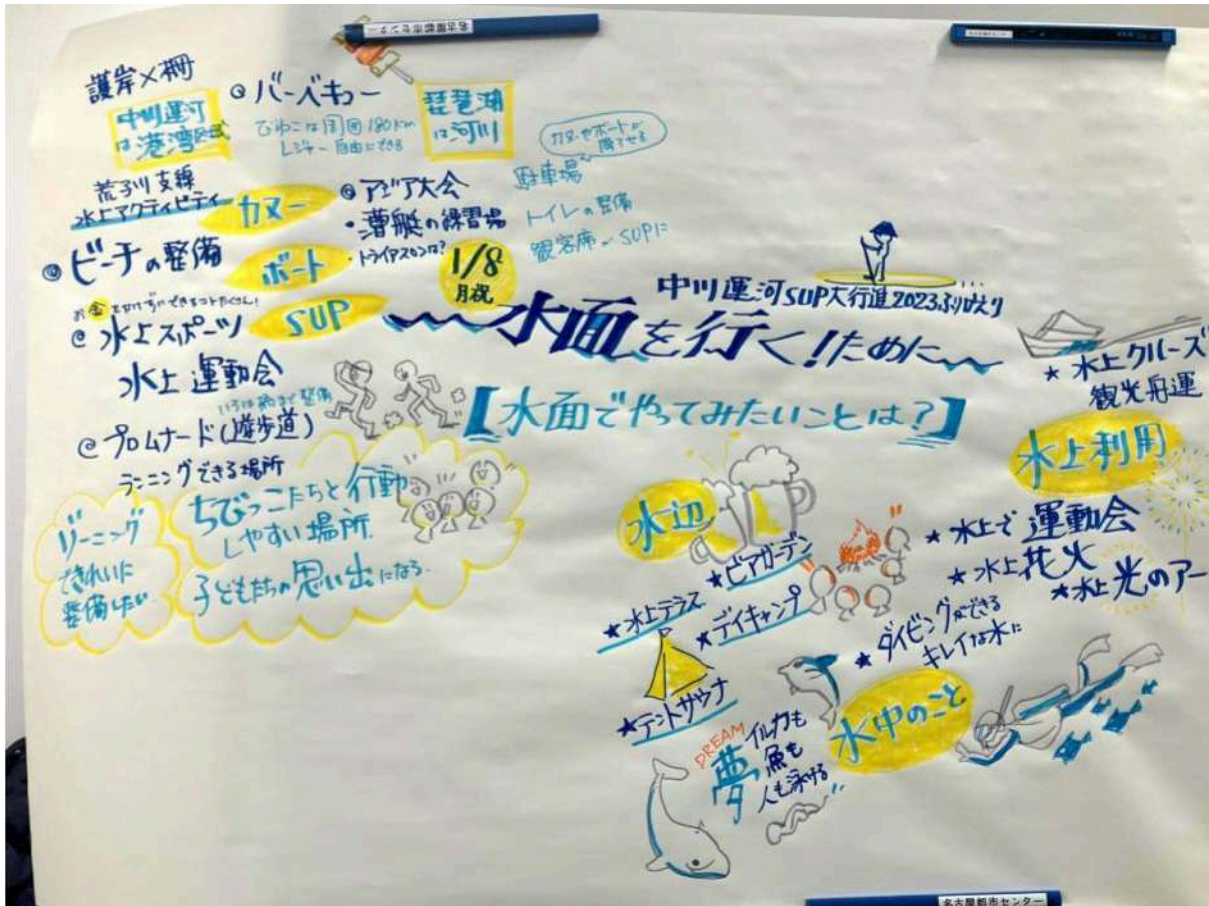
水辺でやってみたいこと



中川運河でダイビング、川に入りたい、泳ぎたい
生物のいる水辺、魚を見る
水上・水中運動会
中川運河まつり・水上花火、水上光のアート
水上交通・クルーズ・通勤・水上タクシー、水上ガイド、
水辺のビアガーデン
水上テラス

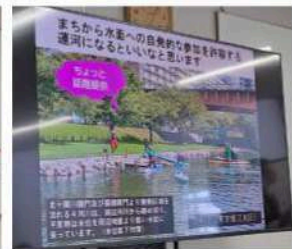
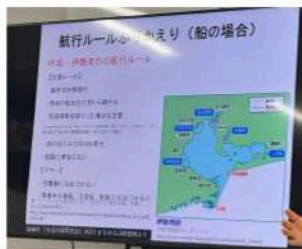
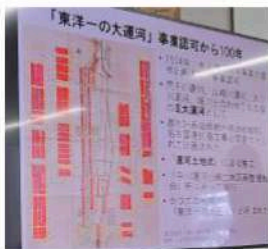


中川運河支線を水上アクティビティの場
に
アジア大会で水上運動会、水上スポーツ、
水上と陸上のバリアフリー、
ビーチが欲しい、潜っていいところ
バーベキューゾーン
思い出になるちびっこと行ける場



ミニ講演 中川運河の概要 川口暢子氏

中川運河の歴史、水面の変化、中川運河再生計画、水際のデザインや植栽、中川運河は港湾区域、沿岸お家の土地利用、貸付ガイドライン、利用手続き、水辺のおきて・航行ルール・SUPと船のルール、中川運河条例一覧...などについて講和まちから水面への自発的な参加を許容する運河になるといいな。





ミニ講演・質疑と意見交換タイム

Q. 港湾区域内でイベント等を実施するにはどうしたらいいのか。

→港湾区域内でイベントは列挙されたものを除き、基本的に不可。個別手続きによる。

Q. ウェイクボードの大会を実施とは？

→コロナ禍3~4年前に岐阜のウェイクボード団体から実施希望があり実現。色は橋近くで行い岸辺全体が観客席になる。水域を限定して水面利用許可手続きを行った。

Q. ドラゴンボートや高校ボート部はどうして利用できているのか。

→漕艇センター協議会、年間通じて許可

◎旧中川のように譲りあって楽しい水面、河川航行ガイドもある。ルール守れば入っていいんだとわかる状況にすることが大事。

→航行ルール、動力船は非動力にやさしくせねばならぬ。徐行してタイヤが乱れるのはNG。

→琵琶湖の瀬田川は船と手漕ぎが共存している。7ノット以下や手を振ること等のルール有

→公表されていることが大事、大阪、河川航行ルール

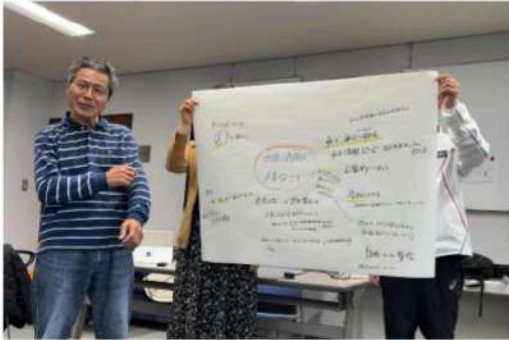


中川運河SUP大行進の報告 井村美里氏

2023/11/4 中川運河SUP大行進の
写真、参加者アンケート、手続きに
ついて説明



水面に行く！ために必要なことを話し合おう



やってみたいという人が増えること
港湾区域では原則禁止、水面活用時は許可が必要、個人はNGで安全管理体制がとれる団体(漕艇センター運営協議会等)は許可できる、年間通じてOK、旧中川は個人もOK、水辺に近づきやすいことと共に安全確保も大事、ステップがある
誰もが自発的に、誰かに頼らず参加したり活動できるように
使うルールが見えていること
活用できるとわかる環境づくり
水上・水辺利用者の総合相談窓口になる水辺拠点があるといい。
潜水時も許可不要な時がある、それは船舶航行がないエリア
使用エリアを区域分けするといい
自由と安全

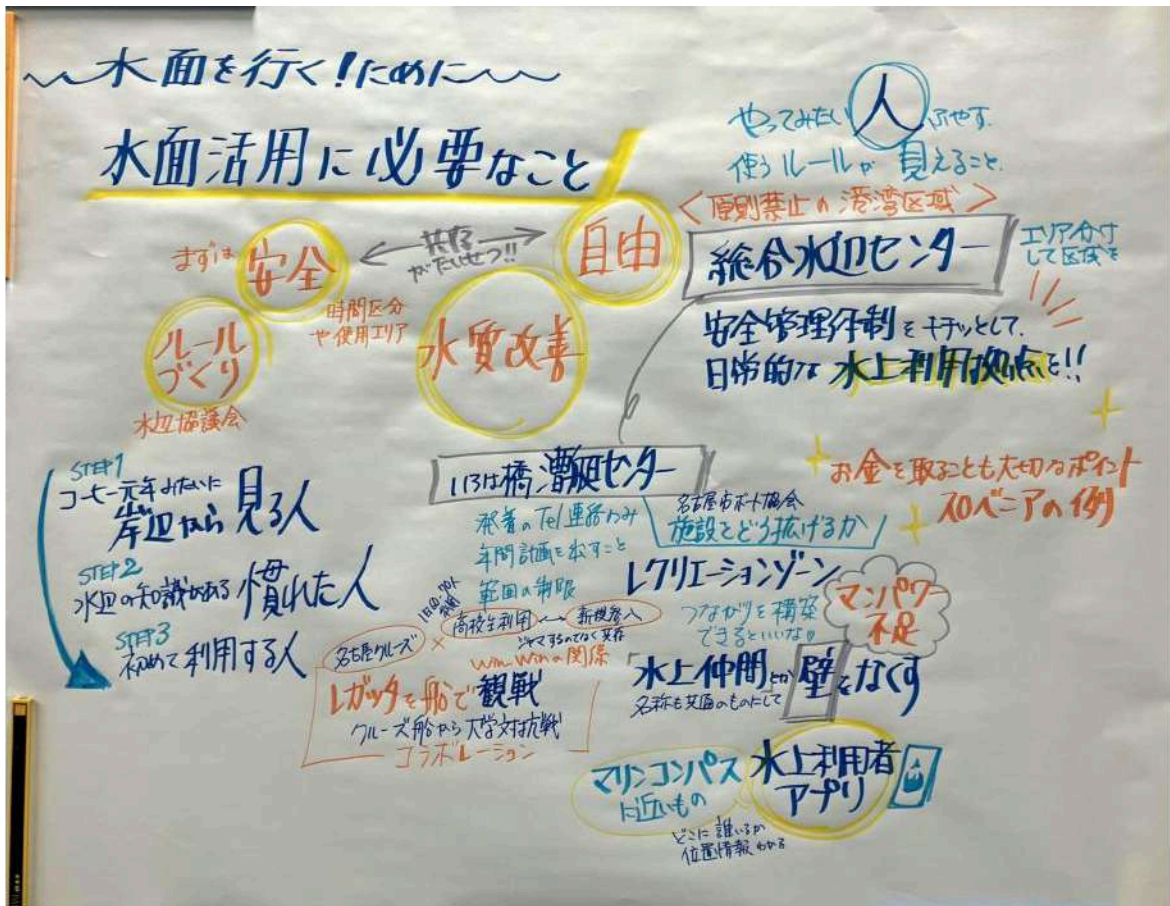


・安全のためにもルールが公表されていることが大事、大阪では時間の区分、場所の区分
・①誰にどこに許可をもらおうといいのか公表されていること、②ID登録
・水上利用者アプリ、マリンコンパスみたいな
・ルール作りの場→水辺協議会
1 水辺を見る人を増やす
2 水辺に慣れている人が利用する
3 初めての人が利用する
今あるものを拡大し、仲間を増やしていく、レクリエーションゾーン、水辺の先輩たち、水上仲間と一緒に

水面に行く！ために必要なことを話し合おう(全体ワーク編)



・両グループとも窓口になる拠点が話題になった。
・拠点には人も必要、漕艇センターに常駐者はいない。利用時は三本さんらが前後に名管に連絡している。管理者のマンパワー不足を感じている
・タンカーの来ない上流を活用するなどエリア分けするといいいのでは？時間分けというアイデアもある
・水上仲間協議会とするとキャパが広がる
・水面利用料を取ると考えるのもあり。
→海外では数千円/人の利用料あるセンターもある。費用は環境整備に使用し、とても快適な水辺になっている。




WS参加者アンケート結果

1. 参加した感想をご記入ください(10件)

とても為になりました。
皆さんの色々な意見等を伺い、とても勉強になりました。
中川運河PFの次につながるWSでした
勉強になりました！学生時代のようなグループワーク楽しかったです。
SUP以外の視点からも話が聞けて良かった。
皆さんの想いを寄せることができ、とても良かったです！
公物であるにも関わらず、港湾区域の利用制約が水面利用の妨げになっているのは課題だ！
水中部を含めた水域利用に特化した内容のお話しができ良かったです。
いい議論ができた
とても有意義な時間でした。特に、同じ価値感・同じ概視経験・同じ未来景色を持っておられる方々と知り合えたから。

2. あなた自身がやってみたいアイデアは何ですか、実施できそうですか？(10件)

地域の子供達の水中ドローンによる観察会
水面利用に係るルールの改善、周知。実施できるよう、努力します。
水上運動会/できると思います
支流の1区画だけでも水底が見えるくらい水質浄化したい⇒実施は膨大な資金が必要
中川運河支線探訪 
中川運河支線の活用 そう
港湾管理者と河川管理者と利用者のWSからの協議会設立
『中川運河』に足を運びたい『気になる中川運河』エリアにする事。水質改善を含めた水中ドローン体験を開催する事により環境に対する考え方を他人事から自分事へ。SDGsという言葉が企業のイメージアップが先行する中、中川運河周辺で生活をする個人(市民)が自分事として捉える活動を行う。
中川運河再生計画でなおざりになっていたレクリエーションゾーンもテコ入れして多様な主体が共存する水面を実現する
私はRowing(ボート競技)ですが、SUPの皆さんと水上仲間になる。水上仲間と水上を賑やかにする。そうする事で、水上を楽しむ新しい人が増やせる。
SUP.Canoe.Dragon.Rowingなどが集ういわゆる『水上運動会』がもうすぐ出来ると実感した。

3. 名古屋市内の川や運河で、SUPやカヌーなどを使...めには、何が必要だと思いますか？（ハード編）
10件の回答



4. 名古屋市内の川や運河で、SUPやカヌーなど...めには、何が必要だと思いますか？（ソフト編）
10件の回答



5. みんなの話を聞いた上で、今あなたの考えを教えてください。中川運河の水面活用が進むために必要なことは何だと思いますか。（10件）

- ・活用が出来ると言う機会を知る事
 - ・水面活用の拠点づくり、その運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保
 - ・名港管理組合の責任軽減と(有料)利用ルールの策定と公開
 - ・中川運河のエントリーポイントや映えスポットの動画をyoutubeにあげて、SNSでインフルエンサーに拡散してもらう等⇒中川運河に降りられることをたくさんの人に知ってもらう
 - ・利用者側の団結
 - ・まずは水辺に目を向ける人を増やす
 - ・港湾管理者と河川管理者と利用者のWSからの協議会設立
 - ・水域活用する利用者(事業者)間の話し合いによるルール作り。ルールを基に『知らない』→『知ってる』へ繋げる。『SUPってなに?』のイベントを開催
 - ・関係主体それぞれが納得するようにして水辺を楽しむ人が増えることを目指す
- 『中川運河を育てる』という意識と、中川運河は都会にある『里山資本』という考え方、の共有と思っています。
- 私達のスタンスは、中川運河という里山を今まで守って来て下さった方々をリスペクトしつつ、中川運河水面利用者が増えれば互いにとってベネフィットが増し、多くの人へ利益提供出来るコモンズになるというスタンス。
- 第一歩として、既存施設の利用者を増やすにはどうすれば良いか？をハードとソフトとマネジメントの3視点で提案する。
- いま在中川運河を皆で育てようと呼びかけ、多くの人への出入りを促し賑わいを喚起し関心を誘う。関心高い運河になれば、様々な提案や投資が起こる。
- 既存施設でやれる事を提案し、使い、改善の提案をするというサイクルを起こす事、と思っています。

その他、自由にご記入ください(6件)

- ・話し合いの場を持って、とても有意義でした。ありがとうございました。
- ・頑張りましょう。未来のひとやまちのために！
- ・2024年SUP大行進⇒企業に協賛してもらえたら良いなと思います
- ・次回の大行進が楽しみです。
- ・お疲れさまでした
- ・中川運河PFの部会制はやりたかったことですので、今日はその第一歩だと思いました👍
- ・『水辺に近づくと危険！』と言うのは、正しい知識や技術がないと危険と感じる。正しい知識や技術を習得する機会を前面に出しイベント開催するとより多くの市民が中川運河に目を向けてもらえるかと思います。さまざまな水域利用活動がコミュニケーション能力の向上につながる様な内容に作り上げることも重要かと。学校教育でできない事を取り入れた取り組みが人に対する接し方の教育につながる。そんな『学び』の要素も取り入れた水域利用活動をしたいです。

まとめのワード



水面でやってみたいこと

ビーチ遊び、川に入りたい、泳ぎたい、潜りたい、生物のいる水辺、魚を見る
 アジア大会で水上運動会、水上スポーツ、カヌー、ボート、SUP、ダイビング・・・
 中川運河まつり・水上花火、光のアート
 水辺のピアガーデン、水上テラス、パーベキュー、ランニングできるプロムナード
 中川運河支線を水上アクティビティの場に
 水上交通・クルーズ・通勤・水上タクシー、水上ガイド、水上と陸上のバリアフリー
 水辺の思い出作り、ちびっこと行動

水面活用に必要なこと

自由と安全を共存させながら

- 1 水辺に目を向ける、やってみたい人を増やす
- 2 水辺に慣れている人が利用する
- 3 初めての人が利用する

そのために・・・

- 水辺の関心を集める動きを作る
(つかう、みせる、発信する...)
- 先陣者がつながり、学び、連携しながらつかう
(顔の見える関係、規制や手続き、航行ルール...)
- 一般の人が気軽に水辺に近づけるように
水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保など拠点づくり(既存施設を使いながら、使える環境を整える)



水辺を気軽に移動できるようになるために

(人材育成に注目して)

1 水辺に目を向ける人、やってみたいという人を増やす

水辺の関心を集める動きを作る(非日常イベントで使って、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)

2 水辺活用に関心ある先陣者が「水辺リーダーズ」になる

非日常イベントで関心を持つ先陣者を集める
 先陣者(同じ価値感・同じ概視経験・同じ未来景色を持つ)がつながる
 中川運河の理解を深める場を持つ(水域利用ルール等を学び、話し合う場)
 水辺の関心を集める動きを作る(つかう、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)
 外から動く

3 行政と連携して対話できる環境や人材が育つ

水域利用に特化した内容を話し合う場(中川運河PFの次の展開)
 水域利用者の話し合いによる(航行&区域&時間等)ルール作り
 港湾管理者と河川管理者と利用者の顔が見える関係作り
 管理者と利用者が連携して、日常的に使える環境を整える(協議会設立、現行の利用規制や手続きの公表、利用者の安全確保:ID登録、水面利用料を環境整備に等)

4 初めての人が気軽に水辺に近づけるようにする

既存施設との連携と積極活用
 水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保など拠点づくり



231125 栃木巴波川ヒアリング

栃木ヒアリング

相手：遠藤翼さん

Share kitchen & space Chidori 運営者

Npo 法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会 事務局

やきいも〈ちどり〉 店主

蔵の街遊覧船 船頭

水辺ガイドの波千鳥 ガイド

Walk Works 〈ワクワークス〉 代表社員

日時：2023年11月25日（土）18:30～

場所：栃木市巴波川



内容

・栃木市は江戸から日光まで物資搬入の舟運拠点として、巴波川（うずまがわ）沿いに発展した問屋町。日光例幣使街道の宿場町としても栄え、北関東最大の商都としての面影を今なお残し、当時の歴史的な景観や蔵の街並み等情緒あふれる街並みが残る。

・市内に多くの倉が残るが、まちとしてまとまった感じはない。

・嘉右衛門町が伝建地区になっている。本当は嘉右衛門町は新しくできたまちのエリア。古い方のまちと一緒にエリア設定して伝建地区申請したが、古い町の方は建物がまともに残っておらず、新しい嘉右衛門町の方だけが指定されてしまった。古い町のひとたちにとっては不本意な状況。

・領主がいる街ではなく、商人のまち。商業も生活に必要な様々なものを扱う。例えば、木材回漕問屋、麻問屋などがあった。

・巴波川には蔵の街遊覧船があり、20分ほどの遊覧を楽しむことができる。栃木河岸船頭唱と、舟からの蔵の街並みを楽しむことができる。

・遊覧船はNPO法人が実施している。船頭は地元の人よりもよそから来た人が担っている。渡良瀬湧水など近隣で船に関わっていた人など。遠藤さんも船頭のひとり。

・地元の人たちは川に対する関心は薄い。川沿いは住宅が多く、家庭からの排水（配水管があったが実際は？）も入る。

・20年ほど前まで川はとても汚く、ゴミも多かった。地元の人はあるな汚い川に入るのか？という反応。遊覧船ができ、少し反応が変わってきた。

・川沿いは幸来橋から麻問屋の横山家付近に遊歩道がある。東武デパートのところで遊歩道が途切れ伝建地区付近は川沿い遊歩道が整備されておらず、例幣使街道と巴波川で囲まれた商家もあるのに、もったいない。

・大きな川河岸は、木材回漕問屋のあたりと、横山家あたりにあった様子。昔の絵には川側から書いた商家の絵もある。川側が正面だったということ。

・現在も水はとてもきれいだが、川底には缶やごみがおちている状況がみられる。

・遠藤さん談「水辺で盛り上げたいけれど、なかなか上手くはいかない。地元の人たちの意識が変わらないとすまない。」水辺の活動よりもまちの動きを活性化させ変化を期待している様子。

・翌朝、私たちが7人でSUPをしていると、水上が目立つらしく、散歩の住民から「それはなに？」「水が冷たいから気を付けて」など何人かから好意的な感じで声をかけられた。遠藤さんからも「巴波川に久しぶりにSUPが入った」とコメントあり。

・SUPができる区間は橋3つの区間（200m程度）のみ。あとは浅くて往来できない。遊覧船も蔵を背景にできる同区間のみ運航、ゆっくり巡り、船頭唄などで案内している。

(感想)

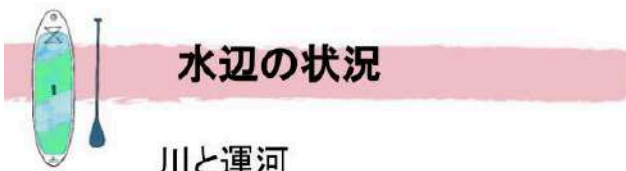
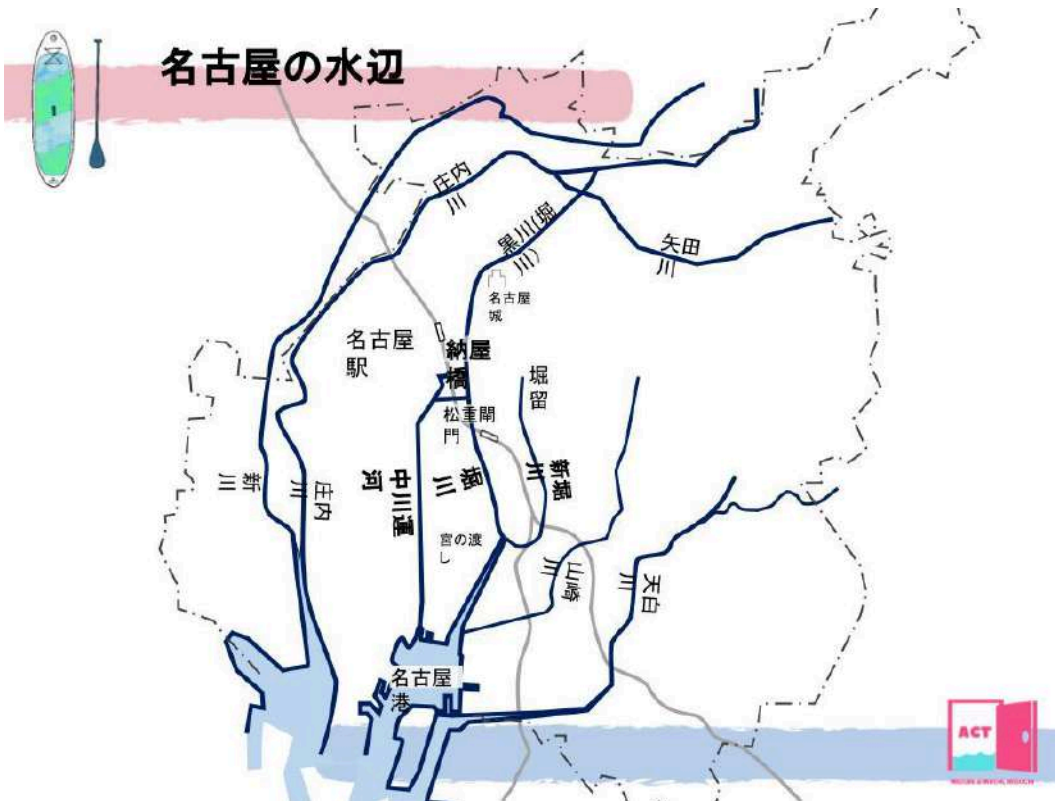
- ・舟運で発展したまちで、巴波川から横に引き込む水路や、麻問屋に引き込み河川沿いに物揚げ場があるなど、船を使って発展してきた街の痕跡が随所に残る。
- ・行政が手をかけていると思われる施設はきれいに整っているが、川に親しみ、川を活かした商売を現在もしているのは遊覧船程度。川沿いを歩けるし、まちの中心に川が流れているのに、うまく使い切れていない印象。もったいない。
- ・遠藤さんが頑張っているのを他都市の人が見て、やってくる。街の外の人たちがSUPなどで川を使い、川を称賛する。それがまちの人の意識を変えるきっかけになるのかもしれない。
- ・NPO 法人遊覧船の担い手は、地元の人よりおよそから来た人。水辺に対する意識が低い人たちを無理に引き込むよりも、よそ者で動かし価値観を変えさせる方が効果的。



(資料)

- ・栃木県 蔵の街 <https://www.tochigi-kankou.or.jp/>
- ・蔵の街遊覧船 <http://www.k-yuransen.com/>
- ・

地域共創シンポジウムにおける成果報告



川と運河

中川運河の水面利用は **0** → **1** を行ったり来たり
水辺に入る、つかう、という見方ができる人
水辺をつかってみよう、という人

- 中川運河でのSUP移動機会の創出
- 参加者への意識調査
- 情報をシェアするワークショップ
- 官民関係者の水上移動に関する経験値向上

取り組み



11/4
Sat

中川運河SUP大行進！ 2023



珈琲元年で
モーニングコーヒー



ハイパース



松重庵門のこっち側

中川運河の水面に立つ
そんな水辺の風景を作りたい
と、昨年初めて「中川運河SUP大行進」を開催しました
そして、今年もやります。あなたも水辺の風景の一員になりませんか

■コース

中川運河(堀止～長良橋～松重庵門)

■スケジュール

- 7:00 集合・受付(事前にSUP準備)
- 7:30 ささしま出発
- 8:15 長良橋着(SUPスルー珈琲元年)
- 9:00 長良橋発
- 9:30 松重庵門で撮影
- 10:00 小栗橋発
- 10:30 ささしま上陸

■参加費

3,000円(Tシャツ、コーヒー、保険代含む)

※小雨決行、予備日11月19日(日)



主催:ナゴヤSUP推進協議会

参加希望の方は、ナゴSUPメンバーに伝えるか、井村まで連絡下さい。

とりまとめ担当:井村美里



○開催日がよかった！理由はマルシェイベント、愛知大学の大学祭、と同日で多くの人に見てもらえたから。

○思ったより水が綺麗だった 水上からの町並みが綺麗だった

○なかなか面白かったです。水質はアレですが景色が良く企画も面白かったです。

○幅広い中川運河だと、あれだけ大勢のSUPが余裕でクルーズできて、醍醐味を味わえ楽しかったです。

水辺からみた岸辺は未来の魅力を感じました。

● 自ら企画してみたい

○水上コーヒーは、サップスルーだと渋滞する＆平行に岸に寄せる技術が必要なのでタイの水上マーケットのように上級者がカゴに入れて配達するスタイルでも良いかなと思いました。(カップ回収も)

● 様々な制約や行政の活動が落ち着くまで

○楽しさは伝わっているので、

● 静観したい

○エントリーは少し大変ですが、ゆっくり下りながらコーヒータイム長かったですね。松重開門、高校3年間名鉄電車から眺めていた建物、やっと分かりました。いい勉強になりました。帰りは駅ビル群を見てのsup良かった～！来年はタモ持で掃除したいですね^_^

○水質が気にならなかったという嘘になってしましますが、水上から観る景色はとても良かったと感じます。思い切りドボンしても良い日があるといいですね。

○出来れば上陸してゆっくり出来れば

街に在るのに喧騒から離れ、広がる水面と空が開放感を与えてくれる。都市の未使用部分の有効活用という将来性を感じられた。

● 希望します

○中川運河でのSUPを通じて、区民同士(市・港)が交流できれば楽しいと思いました。

● 希望します

○コーヒータイム素敵な時間でした お菓子をいただけただけは、サプライズで嬉しかったです。

● 詳細を知って決めます

○とても良かったです 水上では陸上での騒音もシャットアウトされ心地よい時間を過ごせました

● 詳細を知って決めます

タイムは陸上でも良かったのかとかなりましたが非日常というところでは良かったと思います 県外在住なので地理感覚がありませんがSUP～上陸しての地域観光(例えば熱田神宮)や昼食等できたら良いのではと感じました

● 県外在住のため参加は難しいと感じます

○日頃会わないパドリストとご一緒できた。とても良い天気で水質もよく、日常的にこの水面で楽しむとよいと思った。

● 詳細を知って決めます

● がつくかわかりませんが都合がつけば参加したいです

中川運河の水面を使おう！

1/8 月祝

中川運河SUP大行進！2023をふりかえり

水面を行く！ために

進行予定

13:30- 開会
14:00- 中川運河でやってみたいことを出し合おう
14:30- 中川運河のことを知ろう
ミニ講演 (愛知工業大学 川口暢子氏)
中川運河SUP大行進！2023の報告
15:15- 水面を行く！ために必要なことを話し合おう
16:30- おわりに



水面でやってみたいこと

ビーチ遊び、川に入りたい、泳ぎたい、潜りたい、生物のいる水辺、魚を見る
 アジア大会で水上運動会、水上スポーツ、カヌー、ボート、SUP、ダイビング・・・
 中川運河まつり・水上花火、光のアート
 水辺のピアガーデン、水上テラス、パーベキュー、ランニングできるプロムナード
 中川運河支線を水上アクティビティの場に
 水上交通・クルーズ・通勤・水上タクシー、水上ガイド、水上と陸上のバリアフリー
 水辺の思い出作り、ちびっこ行動

水面活用に必要なこと

- 自由と安全を共存させながら
- 1 水辺に目を向ける、やってみたい人を増やす
 - 2 水辺に慣れている人が利用する
 - 3 初めての人が利用する
- そのために・・・
- 水辺の関心を集める動きを作る(つかう、みせる、発信する...)
 - 先陣者がつながり、学び、連携しながらつかう(顔の見える関係、規制や手続き、航行ルール...)
 - 一般の人が気軽に水辺に近づけるように
- 水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保など拠点づくり(既存施設を使いながら、使える環境を整える)





水辺を気軽に移動できるようになるために (人材育成に注目して)

1 水辺に目を向ける人、やってみたいという人を増やす

水辺の関心を集める動きを作る(非日常イベントで使って、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)

2 水辺活用に関心ある先陣者が「水辺リーダーズ」になる

非日常イベントで関心を持つ先陣者を集める

先陣者(同じ価値感・同じ概視経験・同じ未来景色を持つ)がつながる

中川運河の理解を深める場を持つ(水域利用ルール等を学び、話し合う場)

水辺の関心を集める動きを作る(つかう、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)

外から動く

3 行政と連携して対話できる環境や人材が育つ

水域利用に特化した内容を話し合う場(中川運河PFの次の展開)

水域利用者の話し合いによる(航行&区域&時間等)ルール作り

港湾管理者と河川管理者と利用者の顔が見える関係作り

管理者と利用者が連携して、日常的に使える環境を整える(協議会設立、現行の利用規制や手続きの公表、利用者の安全確保:ID登録、水面利用料を環境整備に等)

4 初めての人が気軽に水辺に近づけるようにする

既存施設との連携と積極活用

水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、

人づくり、財源確保など拠点づくり



水辺とまちの入口ACT株式会社
井村 美里



人材育成のためのカリキュラム作成

令和5年度 地域公共交通のためのまちづくり団体による人材発掘・育成事業

「水辺の人材育成カリキュラム」報告

水辺とまちの入口ACT株式会社

1. 事業の主旨・委託内容

少子高齢化のなか、人やインフラの一極集中が進行し、地域では常住・交流人口の減少による担い手不足や交通インフラ不足により、活力・経済力が低下する「負の循環」が顕在化してきている。

当地域のまちづくりの現状を見ると、まちづくり団体は多数点在するが、それぞれ構成員が少ないためマンパワーや活動費にも限界があり、活動領域も狭い。そのため、個々の発信力は弱く、経済効果が発揮されにくい。本事業においては、まちづくり団体が経済団体や行政、あるいは大学等とも連携しながら、まちづくりの担い手を獲得育成することで、共創とそれによる地域性の高い、きめ細かい交通インフラの創出(リ・デザイン)を促進し、回遊性向上による地域が一体となった魅力発信力の強化へと「好循環」を生み出していくことを目標とする。

【委託内容】

①各まちづくり団体による人材発掘・育成事業（ブースター事業）

それぞれの身近な属性をターゲットに構成員獲得、連携強化、回遊性向上に資する講座等を実施する。(ターゲット…高校生、大学生、地域住民、ポストク、行政職員、スタートアップ事業者 etc.)

②地域共創シンポジウムにおける成果報告

③人材育成のためのカリキュラム案の提案

2. 目的

「水辺の人材育成カリキュラム」案の作成、提案

将来的にSUPやカヌーなどパーソナルな水上移動手段が市民の身近なものとなり、水辺を気軽に移動できるようになることをめざし、水上移動を実践する人材の育成に必要な事項を調査し、人材育成のためのカリキュラム案を作成、提案するもの。対象地は中川運河水面とする。

3. 実施内容

名古屋駅と名古屋港を結ぶ中川運河は、広大な水辺に新たな価値や役割を見出し、うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河への再生を目指して行政においては「中川運河再生計画」を策定し、ハード、ソフト両面からの取り組みにより賑わい創出を目指している。しかし、現状は水上が利用される機会は甚少なく、イベントなど機会創出の都度、官民ともにゼロベースで状況確認、許可手続き、関係者協議を行っている状況である。

今回事業では、この点を互解するべく、実験的なデモンストレーションとして、中川運河の一部区間でのSUP水上移動イベントの実施、イベント実施後に参加者にアンケートを実施、経験内容や手続き等の情報を共有する機会としてワークショップを実施、行政機関への提案を行い、官民関係者の水上移動に関する経験値向上を図りつつ新たな水上利用実践者の育成を目指すこととする。また、これらの取り組みを、人材育

成のためのカリキュラムとしてまとめ、提案する。

【具体的な実施事項】

- ①中川運河でのSUP移動イベント「中川運河SUP大行進！2023」の実施
- ②イベント参加者アンケート実施
- ③他都市ヒアリング（栃木市蔵の街）
- ④ワークショップの実施、アンケート、まとめ
- ⑤関係行政機関への報告・提案
- ⑥人材育成カリキュラムの作成

中川運河とは…

名古屋港と名古屋駅近くささしま地区を結ぶ水運物流の軸として、名古屋の経済・産業の発展を支えてきた歴史をもつ運河。昭和7年に全線供用された後、昭和39年に水運利用のピークを迎えたが、貨物輸送がトラックへと変化したことなどから現在は1日数隻の船の往来となっている。運河は、港湾法による港湾施設〔港湾区域（水域）・臨港地区（陸域）〕となっており、個人が水面を使うことは想定されていない。

4. 実施成果

■中川運河でのSUP移動イベントの実施■

SUPを所有し自ら漕ぐことができる者を対象にして参加者を募集し、中川運河をSUPで大人数で水上移動するイベントを企画実施した。

詳細は別添「231104 中川運河SUP大行進&アンケート」参照

（概要）

日 時：11/4（土祝）7:00～10:30

コース：中川運河（堀止～長良橋～松重閘門）

参加者：33名（ナゴヤSUP推進協議会 13名
デンソーボート部3名 パドルクラブ
水面浮遊部 17名）

（成果など）

中川運河に新しい水辺の風景をつくることができた。橋の下で陸と水上のやりとりや、沿岸店舗の客と手を振りあうなど周囲のまちから関心を集める効果があった。

漕ぎ方の違いなどから、SUPとカヌーが同じイベントに同時参加することは稀だが、声を掛け合って注意しながら同じ空間で体験できたことで、互いの動きを理解でき、今後の協働可能性が広がったことの意義は大きい。



■参加者アンケート実施■

中川運河 SUP イベント参加者へ、参加動機、水上イベント企画の意向、水面利用に感じるハードルなどについてアンケートを実施。

詳細は別添「231104 中川運河 SUP 大行進&アンケート」参照

問5 中川運河で水面を活用したイベントを企画してみたいと思いますか。

自ら企画してみたい 21.4%、企画に参加してサポートしたい 35%、イベント参加するのが楽しい 35%
→非日常イベントへの関心の高さ

問6 中川運河の水面利用ハードルを下げるための勉強会に参加希望する？

希望 50% →知りたい意欲の高さ

問3 中川運河 SUP 大行進！2023 に参加した感想

水質、水上から見る風景の魅力、中川運河の広さを活かした水面活用、水面と空の解放感、騒音もシャットアウトした非日常、これを日常に。というコメント

■他都市ヒアリング（栃木市巴波川）■

古い町並みを活かしたまちづくりの活動と、遊覧船の船頭やガイド、SUP ツアーなど水辺の活動を並行して実施している栃木市の遠藤氏を対象として、水辺の活動の担い手についてヒアリングを実施した。

詳細は別添「231125 栃木市蔵の街遠藤氏ヒアリング」参照

（概要）

日時：2023年11月25日（土）18:30～

場所：栃木市巴波川・蔵の街

ヒアリング先：遠藤翼さん（Share kitchen & space Chidori 運営者、Npo 法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会 事務局、蔵の街遊覧船 船頭、水辺ガイドの波千鳥 ガイド）

（成果など）

地元の人たちはあんな汚い川に入るのか？という反応で川に対する関心は薄かった。NPO 法人が運営する遊覧船がはじまり、まちの人の反応が少しずつ変化する。遊覧船の船頭はまちの部外者が担う。他都市の人が見学に来て川を称賛する。それを知ってまちの人の意識が変わる。水辺に対する意識が低い人たちを無理に引き入れようとするよりも、よそ者で動かし価値観を変えさせるのが効果的。

■ワークショップの実施、まとめ

水上活用の実践者を主な対象者として、中川運河 SUP 大行進をふりかえり、水面活用を広く展開するために必要なことなどを話し合うワークショップを実施し、その成果をまとめた。

詳細は別添「240108 中川運河 WS&アンケート」参照

（概要）

日時：2024年1月8日（月祝）13:30～16:30

場所：名古屋都市センター13階

参加者：14名（中川運河 SUP 大行進参加者、行政が主催する中川運河プラットフォーム参加者、行政）

内容：中川運河の概要ミニ講座、中川運河 SUP 大行進の報告、水辺でやってみたいことや活用のために必要なことに関する意見交換

(ワークショップで話し合われた内容)

水面でやってみたいこと

ビーチ遊び、川に入りたい、泳ぎたい、潜りたい、生物のいる水辺、魚を見る
アジア大会で水上運動会、水上スポーツ、カヌー、ボート、SUP、ダイビング・・・
中川運河まつり・水上花火、光のアート
水辺のピアガーデン、水上テラス、バーベキュー、ランニングできるプロムナード
中川運河支線を水上アクティビティの場に
水上交通・クルーズ・通勤・水上タクシー、水上ガイド、水上と陸上のバリアフリー
水辺の思い出作り、ちびっこと行動

水面活用に必要なこと

自由と安全を共存させながら
1 水辺に目を向ける、やってみたい人を増やす
2 水辺に慣れている人が利用する
3 初めての人が利用する
そのために・・・
●水辺の関心を集める動きを作る(つかう、みせる、発信する...)
●先陣者がつながら、学び、連携しながらつかう(鎖の見える関係、規則や手続き、航行ルール...)
●一般の人が気軽に水辺に近づけるように
水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保など観点づくり(既存施設を使いながら、使える環境を整える)

水辺を気軽に移動できるようになるために

(人材育成に注目して)

- 1 水辺に目を向ける人、やってみたいという人を増やす**
水辺の関心を集める動きを作る(非日常イベントで使って、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)
- 2 水辺活用に関心ある先陣者が「水辺リーダーズ」になる**
非日常イベントで関心を持つ先陣者を集める
先陣者(同じ価値感・同じ視覚経験・同じ未来景色を持つ)がつながら
中川運河の理解を深める場を持つ(水域利用ルール等を学び、話し合う場)
水辺の関心を集める動きを作る(つかう、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)
外から動く
- 3 行政と連携して対話できる環境や人材が育つ**
水域利用に特化した内容を話し合う場(中川運河PFの次の展開)
水域利用者の話し合いによる(航行&区域&時間等)ルール作り
港湾管理者と河川管理者と利用者の顔が見える関係作り
管理者と利用者が連携して、日常的に使える環境を整える(協議会設立、現行の利用規制や手続きの公表、利用者の安全確保: ID登録、水面利用料を環境整備に等)
- 4 初めての人が気軽に水辺に近づけるようにする**
既存施設との連携と積極活用
水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保など観点づくり

(成果など)

- ・ワークショップ参加者は、SUP 大行進参加者、カヌー実践者、水中ドローン事業者など既に水面利用している人たちだった。
- ・はじめに「水辺でやってみたいこと」を夢を含めて自由に出し合った。その後、中川運河の基本情報や課題となっている行政手続き等を学び、理解を深めた後に「活用するために必要なこと」を話し合った。
- ・こうしたプロセスを経たことで、水域利用者としてのやりたい思いを言うだけでなく、客観的に「水域活用の自由と安全確保」を追求しようという意見にまとまっていった。
- ・参加者の感想として、勉強になった、SUP 以外の視点の話が聞けて良かった、水域利用に特化した話しあいでき良かった、同じ価値感・同じ概視経験・同じ未来景色を持っておられる方々と知り合えた 等、利用者側の相互理解と顔の見える関係性を持つことに意義を感じる意見が多くみられた。

■関係行政機関への報告・提案

中川運河の水辺活用をすすめる上で関わりの深い、名古屋市、名古屋都市センターへワークショップでの話し合いの成果を報告に行った。(事前案内し、ワークショップに参加した名古屋港管理組合は除く)
特に、「3 行政と連携して対話できる環境や人材が育つ」に関しては、水辺活用の実践者と行政の関係部署が、連携して今後の水辺活用を考え、話し合う場が必要となるため、この点について提案し、理解を得た。

- 1 水辺に目を向ける人、やってみたいという人を増やす
水辺の関心を集める動きを作る (非日常イベントで使ってみせる、体験機会の提供、使えることを伝える)
- 2 水辺活用に関心ある先陣者が「水辺リーダーズ」になる
非日常イベントに関心を持つ先陣者を集める
先陣者 (同じ価値感・同じ概視経験・同じ未来景色を持つ) がつながる
中川運河の理解を深める場を持つ (水域利用ルール等を学び、話し合う場)
水辺の関心を集める動きを作る (つかう、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える)
外から動く
- 3 行政と連携して対話できる環境や人材が育つ
水域利用に特化した内容を話し合う場 (中川運河 PF の次の展開)
水域利用者の話し合いによる (航行&区域&時間等) ルール作り
港湾管理者と河川管理者と利用者の顔が見える関係作り
管理者と利用者が連携して、日常的に使える環境を整える (協議会設立、現行の利用規制や手続きの公表、利用者の安全確保: ID 登録、水面利用料を環境整備に等)
- 4 初めての人が気軽に水辺に近づけるようにする
既存施設との連携と積極活用
水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、
人づくり、財源確保など拠点づくり⑥人材育成カリキュラムの作成

(報告日)

2024年2月5日(月) 名古屋市名港開発振興課

2024年1月31日(水) 名古屋都市センター

■水辺の人材育成カリキュラム（案）

| | |
|------------------------|--|
| 1.全体概要 | <p>将来的に SUP やカヌーなどパーソナルな水上移動手段が市民の身近なものとなり、水辺を気軽に移動できるようになることをめざし、水上移動の実践者を育成する。</p> <p>個人での水域利用がほとんど行われていない中川運河においては、先陣者として水域を利用する水辺リーダーズを見出し、学びのワークショップで集中的に育成することが、実践者のすそ野を広げる効果的な方法となる。</p> |
| 2.水上移動をコーディネートするための人材像 | <p>①水辺に目を向ける人、やってみたいという「水辺ファン」 ※まちから関心を持って水面を見る人々</p> <p>②水辺活用に関心ある先陣者「水辺リーダーズ」 ※SUP、カヌー、水中ドローンなど中川運河の水域利用者</p> <p>③水辺の活動に関心を持つ「地域」団体</p> <p>④水域の管理及び活用推進を図る「行政」機関（名古屋市、名古屋港管理組合、名古屋都市センターほか）</p> |
| 3. 水上移動を推進するにあたり抱える課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・中川運河再生計画を持ち、ハード、ソフト両面からの取り組みにより賑わい創出を目指す中川運河ではあるが、本来は港湾施設〔港湾区域（水域）・臨港地区（陸域）〕であるため、個人による水域利用が想定されておらず、利用に必要な手続きや提出書類などが一般に公表されていない状況である。利用を希望する者はその都度、管理者に個別に問い合わせる必要がある。 ・水域利用の機会は基だ少なく、重ねてこれまで実施された水域利用の経験が後継者へ引き継がれていないため、利用機会が創出される都度、官民ともにゼロベースで状況確認、許可手続き、関係者協議を行っており、0→1を手探りで繰り返す状況になっている。 ・名古屋市民にとっても中川運河沿いの住民にとっても、中川運河の水域利用を目的のあたりにする経験が乏しく、そもそも水域利用するという視点が欠如している。 ・水域に入る、つかう、という見方ができる人や、ちょっとつかってみようという水域利用を先陣する水辺リーダーズを見出す必要がある。 ・仮に一般の人が水域を使ってみようと思ったときも、利用可能な場所、備品などのハード環境が整っていない。 ・水域利用と安全確保は両者必須だが、一般の方が水辺を利用する際の、水の安全を伝える人材、環境が整っていない。 ・水域利用者同士のつながりの希薄、情報共有ができていない。 |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>4. 人材育成に必要な育成カリキュラム</p> | <p>次のステップで水辺の人材発掘と育成、水辺の環境づくりを展開することを目指す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 水辺に目を向ける人、やってみたいという「水辺ファン」を増やす <p>【取組み】</p> 水辺の関心を集める動きを作る、発信する、部外者を歓迎する風土をつくる (非日常イベントで使ってみせる、体験機会の提供、使えることを伝える) 2 水辺活用に関心ある先陣者が「水辺リーダーズ」になる <p>【取組み】</p> 非日常イベント参加者から水域利用に関心を持つ先陣者を集める 先陣者(同じ価値感・概観経験・未来景色を持つ)がつながる機会をつくる 中川運河の理解を深める場を持つ(水域利用ルール等を学び、話し合う場) 小さくていい、水辺の関心を集める動きを作る(つかう、みせる、体験機会の提供、使えることを伝える) 3 行政と連携して対話できる環境や人材が育つ <p>【取組み】</p> 水域利用に特化した内容を話し合う場をつくる(中川運河PFの次の展開) 水域利用者の話し合いによる(航行&区域&時間等)ルール作り 港湾管理者と河川管理者と利用者の顔が見える関係作り 管理者と利用者が連携して、日常的に使える環境を整える (協議会設立、現行の利用規制や手続きの公表、利用者の安全確保など) 4 初めての人が気軽に水辺に近づけるようにする <p>【取組み】</p> 既存施設との連携と積極活用 水辺の使い方をわかりやすく伝える窓口、機材、運営を担う連携体制、仕組み、人づくり、財源確保など拠点づくり |
|----------------------------|--|

| | |
|-------------------|---|
| <p>5. 具体的な取組み</p> | <p>人材育成に必要な育成カリキュラムのうち、「水辺ファン」、「水辺リーダーズ」を発掘し、育成する段階に先行的に注力する。</p> <p>水辺ファンに支えられた、水辺リーダーズが育った先に（同時進行で）、行政との対話の場づくり、初めての人が気軽に水辺に近づく環境づくりをすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中川運河を使った非日常イベント（中川運河 SUP 大行進など）を実施する 2. イベント参加者から、水辺活用に関心を持つ水辺リーダーズを集める 3. 水辺リーダーズがつながり、学び、理解を深めるワークショップを開催する 4. 水辺リーダーズが仲間（水辺ファン、水辺リーダーズ、地域、行政）を募って非日常イベントを実施する <p>以降、2, 3, 4をくりかえす</p> <p>特に、人材育成に関して肝要な点は、「2水辺リーダーズを集める」、「3水辺リーダーズがつながり、学び、理解を深めるワークショップの開催」である。</p> <p>【水辺リーダーズがつながり、学び、理解を深めるワークショップの開催】</p> <p>年に1回程度、その年に中川運河の水域利用をした実践者を集め、情報共有と学ぶ機会をつくる。</p> <p>内容は、今回実施したワークショップのように、「水辺でやってみたいこと」を話し合い、中川運河の基本を知り、客観的に「水域活用の自由と安全確保」を追求する水辺リーダーズとして育成するもの。</p> <p>「水辺でやってみたい」発言を、小さくてもいい、何かが実現する動きをつくるよう、他メンバーが応援する場をめざす。</p> <p>同じ価値感・同じ経験・同じ未来景色を持つ水辺リーダーズが、顔の見える関係性を保ち続けることで、2, 3, 4のくりかえしと水域利用の発展につながる。</p> <p>人材育成カリキュラムの運行フロー (イメージ)</p> |
|-------------------|---|